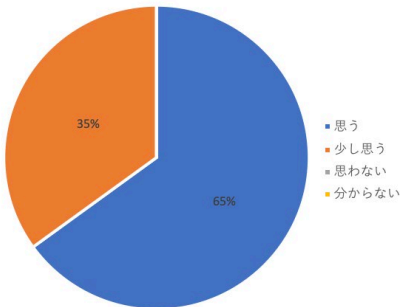


〈 AIを活用したアプリの実証 〉 回答者数(N=20人)

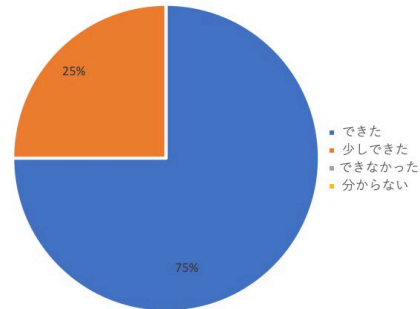
本アプリを通じて商品のエシカル要素を知ることができた、本アプリのようなツールが有効だと回答した人が「できた」「少しできた」を含めると100%を占めておりアプリの有用性が証明できた。また、価格以外の要素として商品の背景を知ることが購入意欲に繋がることがわかった。

本アプリの有用性を直接聞いた設問に対しては、100%の人が有用であると回答しており、自由回答欄やアンケート回収時のコミュニケーション時の反応からも肯定的な意見が多かったことから、本アプリは高い実用性があると想定される。ただし、「若者からシニア層まで操作でき簡単にわかりやすくしてほしい」「わざわざ商品のストーリーを見るというアクションを起こすかは疑問」という意見もあり、実用化する場合にはこれらの点を十分考慮する必要があるといえる。

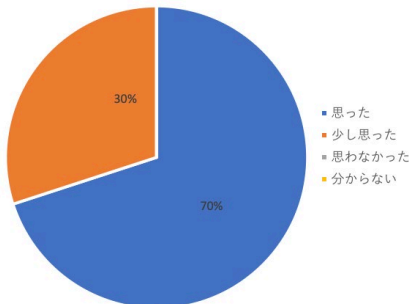
1.商品を購入する際に、価格以外の要素として、「商品の背景」を知りたいと思いますか？



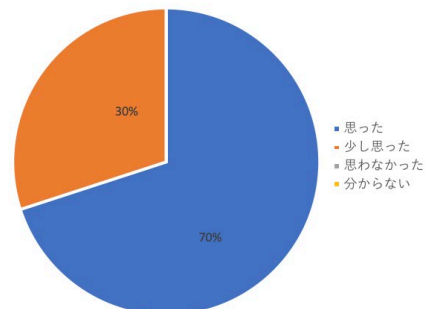
2.本アプリを体験し、商品の「背景」や「エシカル」な要素を知ることができましたか？



3.商品の「背景」や「エシカル」な要素を知り、商品を購入したいと思いましたか？



4.本アプリのように、商品の背景や「エシカル」な要素を知るツールは有用だと思われますか？



- ・同じものが販売されていた時、商品の背景について分かるもので、よりエシカルなものを購入したいと思う
- ・商品の背景について動画を併せて分かりやすいポップの説明もあると良い
- ・実際にAIアプリを通じて商品ができるまでの過程を見て、作られるまでの背景や苦勞などを知ることができたので良かったと感じた
- ・他の商品にも展開してほしい。ただし、若者から老人まで使えるものにする必要がある
- ・もっといろいろな商品で背景がわかるよう展開を増やしてほしい

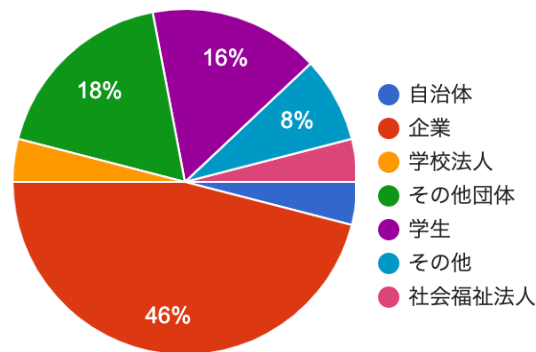
〈 当事業の関与者に対するアンケート〉 回答者数 (N=50人)

本事業には多くの関与者があり、消費者、生産者、販売者、企業、行政、学生、社会福祉法人、団体、等、多様な主体、多様な世代で構成されている。約半数の所属は企業であるが、その中でもエシカル消費推進に熱心であること、問題意識を持つのは若手社員が多いことが印象的であった。

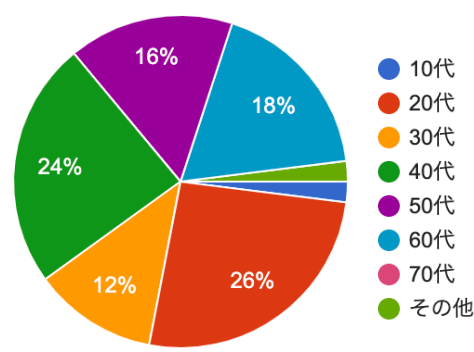
Webサイトでの取材・インタビューにおいても、企業経営者と若手の組み合わせがあった。また、自身の取り組みをWebサイトやイベント等で発信することが仕事の誇りや意欲になるとの回答があった、「少しなった」を合わせると100%の結果であり、発信の場所があることが重要であることが認識された。

今回の取り組みが単年度で終わるのではなく、今後の地場産業の持続可能な発展改善に繋がること、また、多様な地方公共団体で活用される事を望む。

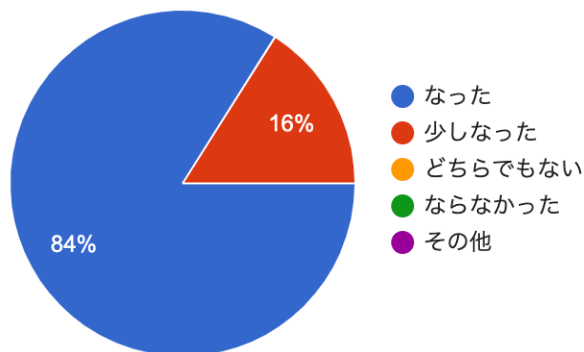
あなたのご所属を教えてください。



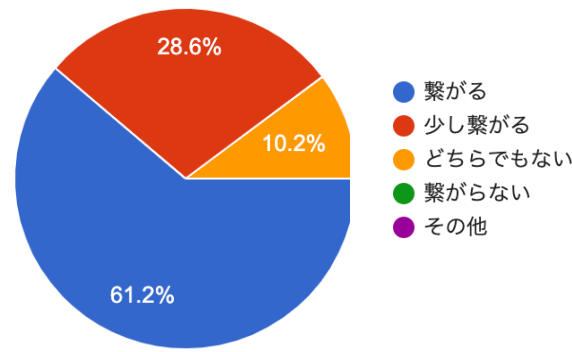
あなたのご年代を教えてください。



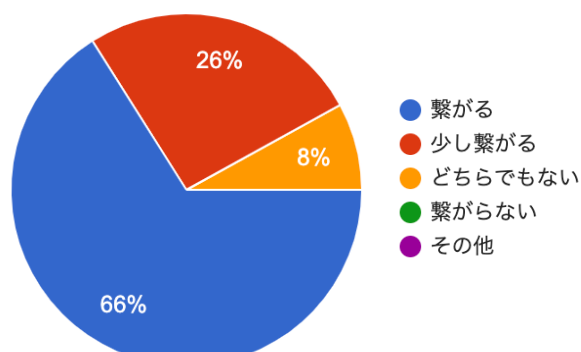
今回のプロジェクトで取り組みをWebサイトやイベント等で発信し、仕事の誇りや意欲になりましたか。



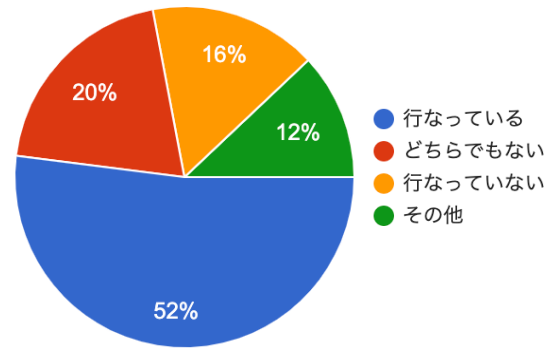
今回の取り組みが地場産業の発展改善のきっかけに繋がりますか？



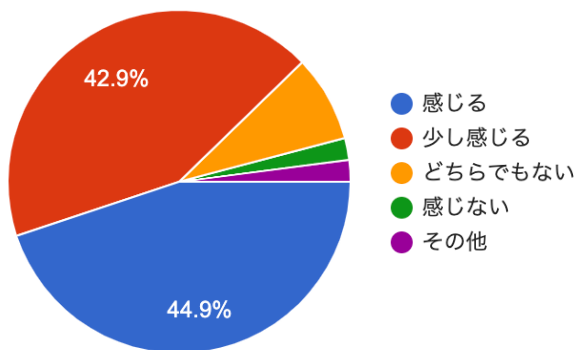
今回の取り組みはサステナブルなものづくりや経営、活動に繋がりましたか？



エシカル商品の背景を理解し、販売活動を行なっていますか？



昨今、エシカル商品に対する
消費者の意識の変化は感じますか？



◆本プロジェクトが地場産業の発展改善に繋がる点〈一部抜粋〉

- ・何事も知ることから発展に繋がると思う。情報の発信と今後を担う若い学生たちに取り組を知ってもらうことが地場産業の発展改善のきっかけとなる
- ・地場産業である繊維業界の大量廃棄などの課題を考えるきっかけになる
- ・取組に対する理解と、関心からくる知識が増えることで、さまざまなファクターが繋がる
- ・地場の作り手と消費者を繋ぎ、持続可能な生活に貢献する
- ・多くの方々に対し地域の取組を発信できたため、一般消費者の方々の理解が深まることでファッションに対する興味が深まれば地場産業への発展にも繋がる
- ・エシカル、サステナブルというキーワードで業界の枠を超えた取組ができる
- ・分断されていた素材～企画デザイン～使用後のリユース・リサイクルといったバリューチェーンを消費者に提示することで地場産業の存在意義を知ることになり、地産地消の促進につながる
- ・取引先としてのお付き合いから、その資材や制作の過程を知ることから背景やものづくりに対する姿勢を共有し深掘りすることで、改善点や工夫する点を見つけられた
- ・学生がデザインし福祉作業場で作る。障害を持っている方が社会参加することで地域での産業発展に繋がる

◆本プロジェクトが地場産業の発展改善に繋がる点〈一部抜粋〉

- ・社会的な大きな流れを知り、法人としても社会的意義がある動きに関わっていくことに繋がる
- ・これまでになかった福祉との連携等を考えるきっかけになった
- ・廃棄される予定だったものに新たな付加価値を与えて1つの作品にすることで、ものの廃棄に対する考え方の視野が広まった
- ・会社の中心的な課題目標としているSDGsエシカルな取組そのものだから意識的に行動している会社や経営をまず知ること、自社でそれが活かせることが考えられる。また、そういった取組を知ること、ある程度の道筋を理解できるため、行動につなげる時間の短縮ができる
- ・これまでは、自分たちの考える範囲でしか商品を考えることができていなかったが、横に繋がっていくことで、さらなる機会、商品、に展開することができるようになった

◆どんな時にエシカル商品に対する消費者の意識の変化を感じるか〈一部抜粋〉

- ・商品の原料や素材、製造工程におけるストーリーを大切にして購入していただく方が増えた
- ・生産地や環境ラベルなどを見て購入している
- ・価格が比較的高くてもエシカルな商品を利用しようという雰囲気の高まり、エシカルに関するマークを見て商品を選ばれている、SDGsやエシカルが消費者の共通語になってきた
- ・少しずつ新しいライフステージとしてエシカルを選ぶべきというトレンドは来ている
- ・衣類においても食品や野菜などと同じように顔が見えるものを探している方が増えてきた
- ・サステナブル素材への要望が急激に増えている

◆これから取り組みたいエシカル消費やSDGsの取組〈一部抜粋〉

- ・SDGsに関わるような素材を使い、製造工程のストーリーが伝わるような商品を届けていきたい。さらに社会的な弱者の方の雇用が生まれるような商品づくりをしたい
- ・環境省が新設を発表した「食と暮らしのグリーンライフポイント推進事業」とエシカル消費の連携と、民間主導で実例を産み出すこと
- ・持続可能な社会を目指す上で、できる限りジャンル問わずやれる事を実行したい
- ・商品のアップサイクル及びLGBTに関する取組を強化したい
- ・単発的なイベントやブーム的なもので終わらせるのではなく、継続して行動している会社や個人がきちんと評価され、より良く社会のために機能するようなことを積極的にやりたい

（２）本事業の成果と残された課題

事業を進めた結果、本事業の成果と残された課題は以下のように示すことができる。

①「エシカル勉強会」のプログラムを通じて、地域、企業、学校、障がい者支援施設、行政が繋がり、新たなものづくりの可能性が見えた。

衣料製品の素材や製造現場での「ものづくり」ストーリーが消費者には伝わらず、消費者のニーズが生産者に伝わらない分断した関係ではエシカル消費が実現できないことは大きな課題として認識していた。本プログラムの大きな特徴は、それぞれの主体が行っている問題解決に向けた取組を、「エシカル勉強会」の開催を通じて、講義やワークショップ、動画、写真で学ぶことにあった。特に、特別講座見学会ではリアルな現場に出向き、五感を働かせて温度・湿度・匂い・明るさ・音を感じ取り、生産現場で作業する人の想いを知り、それぞれの立場で社会の一員としてサステナブルな社会構築に繋がるエシカル消費行動の実践イメージを明確にすることができた。

今回は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により障がい者支援施設への訪問が叶わなかった。また、こうした勉強会を大人だけでなく、子育て世代に向けて行う等、子どもと保護者が一緒になって学ぶことができる勉強会に発展させることや、地域の小中学校と連携を深めて地域で子どもたちに伝える勉強会を開催することなど、取組の場を広げることは今後の残された課題と考える。さらに、中部地方だけでなく、この取組がより広い地域でも展開され、生産者、販売者、消費者のバリューチェーンが繋がりあい、共感する環が全国に広がっていく為に、そのコーディネートを行うコーディネーターの育成は今後の課題である。

②未来の衣料関連産業を担う若者や地域企業とのパートナーシップで取組を行うことができた。

「衣類」の生産・販売・消費活動等の中で、消費者の満足を得るために多めの製造が慣例となっている。大量生産は、大量廃棄、ファッション・ロスを生み出し、地球環境への負荷増大の現実をファッションを学ぶ若者が知る機会は多くなく、実感を持っていないことは大きな課題として認識していた。本プログラムでは、「人がつむぎ、糸が奏でるエシカル・ファッション」をテーマにエシカル&フェアトレード、サステナブルファッションショートークを行った。これは、「エシカル×若者×繊維産業×SDGs」をテーマにした多様な主体によるイベントで、地元大学の学生による地場産業の尾州毛織物繊維・生地を生かしたアップサイクル・ファッションショーや企業や団体、行政担当者によるエシカルディスカッション等多様な主体の関わるイベントである。

ファッションショーで使われた生地はすべて、地域企業からの未利用繊維素材や、学生らが愛用していた衣服を再利用するなど、未来を生きる学生達がアップサイクルを体現し、表現した。当日のイベントの様子は、数社からの取材があり、地域社会へ広く啓発波及効果をもたらし、ファッションを学ぶ学生自身がエシカル消費及びエシカル・ファッションを知る取組となった。また、会場では、地域企業や団体、行政担当者によるディスカッションや、エチオピアの生産者と中継で意見交換が行われていたが、バリューチェーン全体でエシカルなものづくりや地球や地域の環境への現実を目の当たりにし、若者達はエシカルの現状を理解したことであろう。

なお、今回は新型コロナウイルス感染症によるまん延防止防止等重点措置が発令されたことにより、同時開催を予定していた「アップサイクル・マーケット」は中止となったが、消費者、販売者から多くの開催要望があり今後の課題の一つである。

さらに、本プログラムで消費者、生産者、販売者、それぞれの立場でできるアクションを行い、できないことはパートナーシップを組むといった視点でプログラムを実施できたことは、本事業における成果である。今後、「衣類におけるバリューチェーン全体での課題を解決」することを目指すこの取組が、中部地方だけに留まらず全国に展開される為には、企業、若者、消費者、行政などがそれぞれ共通認識を持ち、共通理解をすることで、それぞれの役割を果たしながら、繋がりを大切にして活動することが求められる。それぞれの地域において、こうした繋がり作りのきっかけをいかに生み出すかが、今後の課題と考えられる。

参考資料 リデザインプロジェクト2021年 入賞作品のご紹介 冊子



受賞作品 の紹介

リデザインプロジェクト大賞

傾かないごちバグ

成安造形大学 荻岡港大さん

家で外食気分を楽しむごちエコバグ。作りが簡単で、障がいのある人でも作りやすいデザインで、中身が傾きにくい。丸洗いができ、コンパットにたたため、生地を驚えるだけでデザインの色が広がります。



七変化タッショ

アンファクショナルカレッジ

須島和加さん

いろいろな時にいろいろな形で使える、変幻自在なタッショ。

首に巻いたり、腰に巻いたり、手で握って使用できるタッショを作りました。



一般社団法人中部SDG推進センター起業者より
手縫いの良い材料の生地を縫って作ったタッショは、簡単に持ち運びやすい。使い方も多く、胸に巻いて通勤用にしたり、肩にかけて荷物の荷重を減らしたり、SDGのイメージで選びました。



デニム植木鉢カバーくん

成安造形大学

田村航大さん

おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。植木鉢の下で汚れては困る立派な、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。植木鉢の下で汚れては困る立派な、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。



株式会社 GEMME 起業者より
おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。植木鉢の下で汚れては困る立派な、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。



M.S.L.サステイナブル賞 ジョルダバグ

アンファクショナルカレッジ

中島来穂さん

例題を参考に、環境を良くする。またこのジョルダバグを作りました。オレンジと黄色のカラーを合わせ、同色の布でタッセルも付けて可愛らしく仕上げました。



一般社団法人AM.S.I.起業者より
バグの生地、タッセルの生地、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。植木鉢の下で汚れては困る立派な、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。



if me賞 くまミトン

愛知芸術専門学校

小川夢也加さん

子ども大人も楽しめるようなかわいく、暖かいミトン。バグの生地、タッセルの生地、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。植木鉢の下で汚れては困る立派な、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。



株式会社 GEMME 起業者より
おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。植木鉢の下で汚れては困る立派な、おうち時間とデニムで楽しく遊ばせたい。



if me賞 ラクスボビタエブロン

名古屋モード学園

水村新さん

誰でも着れるおぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、ラクスボビタエブロン。ラクスボビタエブロンを作りました。



株式会社 me 起業者より
誰でも着れるおぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、ラクスボビタエブロン。ラクスボビタエブロンを作りました。



ウェイクストボックス賞 パッチワークエブロン

名古屋モード学園

宇佐美航希さん

分けておぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、パッチワークエブロン。パッチワークエブロンを作りました。



株式会社ウェイクストボックス起業者より
誰でも着れるおぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、パッチワークエブロン。パッチワークエブロンを作りました。



美和アネリタ賞 ラブリックタッショ

愛知芸術専門学校

草野奈葉さん

おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、ラブリックタッショ。ラブリックタッショを作りました。



株式会社美和アネリタ起業者より
おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、ラブリックタッショ。ラブリックタッショを作りました。



コモドラ賞 トートバッグ

中部ファッション専門学校

石川月海さん

おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、トートバッグ。トートバッグを作りました。



株式会社 GEMME 起業者より
おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、トートバッグ。トートバッグを作りました。



花師賞 あったか麻シューズ

名古屋造形大学

鬼頭美花さん

おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、あったか麻シューズ。あったか麻シューズを作りました。



株式会社 GEMME 起業者より
おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、あったか麻シューズ。あったか麻シューズを作りました。



美和アネリタ賞 おリボンくまちゃんの消毒液カバー

大分県立高等学校

後藤和心さん

安田有希奈さん

大崎潤さん

おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、おリボンくまちゃんの消毒液カバー。おリボンくまちゃんの消毒液カバーを作りました。



株式会社美和アネリタ起業者より
おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、おリボンくまちゃんの消毒液カバー。おリボンくまちゃんの消毒液カバーを作りました。



美和アネリタ賞 デニムトート2021

愛知芸術専門学校

小山創太さん

おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、デニムトート2021。デニムトート2021を作りました。



株式会社美和アネリタ起業者より
おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、デニムトート2021。デニムトート2021を作りました。



コモドラ賞 2WAY タッショ

名古屋造形大学

夏目祐子さん

おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、2WAY タッショ。2WAY タッショを作りました。



株式会社 GEMME 起業者より
おぼろいエブロン。"おぼろ"行為を模した、2WAY タッショ。2WAY タッショを作りました。

ラデザインプロジェクトは地域資金バンクから愛知県及びびじゅつ環境財団において、地場産品の素材・伝統的素材を材料に、地域の学校でデザインを学ぶ学生が作成した作品をコンテストで選び、それを地域の誰かが、着て作業着で使われる。地域の小売店舗で販売する、という地域の主体が望めるパートナーシップです。地域産品の資源活用というコンセプト・アイデア・陣から考証、労働参加・消費者の共感というエンゲージメントを具現化したプロジェクトです。デザインプロジェクトは、活動に賛同する企業や団体が自らの地域社会、会員組織として、地利用素材の提供、販路開拓の提供、スキルでの支援、コンテストの企画策定での内外を支援、誰かが、事の成敗、実行役格として支援することによって活動する共創的関係です。

- ・エシカル消費の促進

01. 色とりどりの地球を題材に描かれた、風景的なイメージ / 03. 商品化へ向けての試み
04. 夢の世界を表現した作品 / 06. 夢の世界を表現した作品
07. 夢の世界を表現した作品

作り手 × 消費者

それは、SDGs 達成に貢献し、
エシカル消費で社会を築くことにもつながります。

生産者

消費者

販路

地域未来に貢献

地域内での消費
地域外への消費
輸出

エシカル消費の推進

環境配慮
労働基準
動物福祉

エシカル消費の推進

環境配慮
労働基準
動物福祉

それは、SDGs達成に貢献し、
エシカル消費で社会を変えることにむかいます。

- ・生産者・販売者・消費者が分断されている関係を、バリューチェーンを可視化し、連携した関係にすることでエシカル消費の理解・共感を促す。
- ・産業される地域未利用繊維素材を材料に、障がい者が商品を作り続けることができる仕組みで持続可能な誰一人取り残さない社会を目指す。
- ・学生をはじめとする若者の才能の発掘と発表の場の提供を行い、エシカルなモノづくりの担い手の育成を目指す。
- ・リデザインプロジェクトの商品を消費者に購入する機会を提供する。
地域のお店で素敵に陳列し、説明して販売することで、消費者にリデザインプロジェクトを知って、共感して購入してもらいます。
- ・障がい者が店頭に自分の作った商品が陳列されている事で、自信と誇りを持つことをめざす。
- ・地域の主体が繋がるパートナーシップで、地域社会のエシカル消費の促進を目指す。

Re DESIGN PROJECT



色とりどりのはがれをすべて手作業で
縫いつけたアップリカリース



企画・運営
事務局
(お問合せ)

リアデザインプロジェクト実行委員会
株式会社 Comodo LABO(コモドラボ)
〒497-0002 愛知県あま市七宝町通島泉水 816
TEL 052-485-8550
E-Mail : redesign@comodolabo.com